

血液型性格判断についての研究

—他者判断された性格に注目して—

1007002

阿部 琴実

【目的】

日本人には血液型と性格の間には関連があるという考え方があり、これまで血液型性格論自体が正しいか正しくないかという研究は300もの追試がすでに行われており、そのほとんどが「血液型と性格に科学的な関連はない」という結論をだしている。本研究ではこれまでの先行研究とは異なった方法で血液型と性格の関連について明らかにすることを目的とする。

研究1) 自己判断ではなく、他者判断された性格と血液型には関連性がみられるのかについて検討する。また性差についても検討する。

研究2) 他者判断した側(判断者)の血液型と判断された側(対象者)の血液型は性格判断に影響を与えているのかについて検討する。

研究3) 自己判断した性格と他者判断された性格では性格傾向に差がみられるのかについて検討する。

【方法】

北星学園大学の豊村ゼミに所属する3年生8名(男性3名 女性5名)、4年生10名(男性4名 女性6名)の計18名を対象に調査を行った。調査は10月下旬に行った。質問紙の構成は以下の通りである。

性格気質について問う質問項目を各血液型5項目ずつ全部で20項目からなる質問紙を作成した。今回は他者からみた性格に注目するため、質問紙の各ページ上部にゼミ生の名前を記載し、上記の1~20の性格・行動を表す項目について、その人物がどの程度当てはまっていると思うか5件法で回答させた。記載された名前が自分の名前のページは自分にどれほど当てはまっているか自己評定をしてもらった。また各ページ下部に他者判断の確からしさを計るために「あなたの上記の判断はどれほど確かだと思いますか。」という質問に「確か」「ほぼ確か」「確かでない」の3件法で回答を求めた。その他に、対象人物の「血液型を知っているか」と「何型らしいと思うか」についても当てはまる血液型に

○を、わからない場合は「わからない」に○をつけさせた。最後に血液型と性格には関連があると思うかについて5件法で回答させ、被験者の血液型について該当するものに○をつけさせた。

【結果と考察】

血液型気質の20項目を4つの因子(A型気質、B型気質、O型気質、AB型気質)に分け、それらの因子ごとの他者判断による合計点を算出した。血液型と性別により気質別合計得点に差がみられるか調べるために多変量分散分析を行った。その結果、血液型・性別・交互作用いずれにおいても有意差はみられなかった。他者判断した側の血液型とその対象者(判断された側)の血液型によって血液型気質得点に差がみられるのかについて調べるために、多変量分散分析を行った。その結果、対象者のA型気質においてのみ有意差がみられた(表1参照)。

表1.判断者・対象者の気質別得点のF値

| | 主効果 | | |
|-------|------|-----------|------|
| | 判断者 | 対象者 | 交互作用 |
| A型気質 | 1.76 | 4.62 **** | .41 |
| B型気質 | .77 | 1.33 | .36 |
| O型気質 | .41 | 1.26 | .61 |
| AB型気質 | .62 | 2.01 | 2.19 |

****p<.0125

自己判断した性格と他者判断された性格では血液型気質得点に差がみられるのかについてt検定を行ったところ、O型のB型気質において有意差がみられた。

本研究の結果から、血液型と性格について、非常に弱い関連が一部みられたが、関連がないという結果のほうが圧倒的に支持された。自己判断と他者判断では多少ではあるが性格傾向に差がみられたにもかかわらず、他者判断された性格と血液型の関連性がみられなかったということは、「血液型と性格は関連性がない」というこれまでの結論を認めざるを得ないだろう。

(指導教員 豊村 和真 教授)